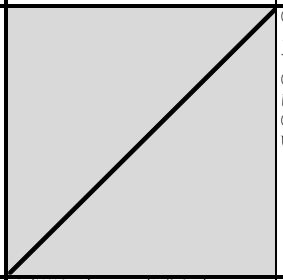
三鷹市立南浦小学校　令和8年度【体育】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		○ルール理解に時間がかかるが、友達と競い合うことを楽しみながら、口頭で振り返ることはできている。 ○仲良く運動することができたが、安全に気を付ける意識をもたせることが必要である。 ○場の工夫を行うことで、児童が関わり合い、競い合って活動できるようになってきた。	○色々な運動に触れることで、規則を理解しようとする意識の高まりも見込めるため、やったことのない運動にも取り組むようにする。 ○友達と攻め方や守り方を選んで競い合ったり、遊び方に多くの幅をもたせることのできるような学習形態を工夫していく。授業の中でよい動きの児童を取り上げて称賛し、価値付けていく。 ○学習の中で思ったことを表現できるように、学習カードの記入の仕方を分かりやすくする。
第2学年	○規則理解への意識を高めるようにし、やったことのない運動にも取り組むようにした。 ○授業者側が運動特性を十分に理解するよう努めた。 ○オリエンテーションの時間を設定し、ルールを説明し、イメージさせてから実践できるようにした。授業の中でよい動きの児童を取り上げて称賛し、価値付けた。 ○学習カードの記入の仕方を「できた。」「できなかった。」を使うなどの条件をつけたり、選択制を多く取り入れるなどして、分かりやすくした。	○勝ち負けがつく遊びへの抵抗やこだわりが強い姿もあるが、どの運動遊びにもすすんで取り組む意欲的な姿が見られる。 ○基本的な動きはほとんどの児童が習得している。一方で、ボールを捕る・投げる、浮く・もぐるなど、できる・できないの差が大きい運動も見られる。 ○運動遊びの行い方を工夫する姿は見られるが、自ら他者へ伝えようとする姿勢はあまり見られない。	○遊びに熱中する中で、動きの高まりが見られるようにする。 ○授業中に気付いたことや、工夫したことなどを発表する機会を設けるとともに、発表した児童の良いところを共有することで、運動遊びをより積極的に取り組む態度を養う。 ○学習カードの振返り欄に、「すすんで運動をすることができた」などの項目を設けることや、「できるようになったこと」「これからできるようになりたいこと」など、振返りの視点を明確にするように工夫する。
第3学年	○遊びに夢中になる時間を設けることはできた。 ○タブレットを有効活用することはできなかった。 ○授業中に発表の機会をあまり設けることができなかった。 ○視点を明確にした学習カードでの振返りを行うことができた。	○思考したことを友達に伝えたり、それを生かして自分の運動につなげたりできている児童が少なかった。 ○準備や片付けを率先して行ったり、勝ち負けにこだわり過ぎずにゲームを楽しんだりできる児童が増えてきた。	○思考したことを友達に伝えたり、それを生かして自分の運動につなげたりできるよう、活動中の児童の発言を全体で共有し、アドバイスをし合える場面を意図的・計画的に行っていく。 ○引き続き児童全員で準備や片付けを行ったり、ゲームで味方や対戦相手を尊重する姿勢を大切にしたりしていけるような学級雰囲気作りを行っていく。
第4学年	○ゲームなどの単元では、それぞれのチームの作戦を決め、それに沿って動ける児童が増えた。また、そのことを振返りカードに書ける児童も増えた。 ○お互いの動きを見ながら高め合うという活動がもっと必要である。	○自分たちが立てためあてに対し、どのように動けばよいか考え、行動できる児童が少ない。 ○お互いの動きに対し、褒めたり、励ましたりする場面は増えたが、具体的なアドバイスをし合う場面が少ない。	○めあてに対し、どのように行動すればよいか、活動の内容を教師が具体的に示し、自分で選びながら運動できるようにする。 ○児童の良い動きを教師が見付け、例示や声掛けを通して全児童に褒め方やアドバイスの仕方を伝えていく。
第5学年	○学習カードに記載させる内容を工夫したり、書き方を指導したりすることで、自分の学習を調整できる児童が増えた。しかし、できていない児童も一定数いるので、書く内容への差が広がった。	○ほとんどの児童が運動に意欲的に取り組もうとしている。 ○自分の課題をきちんと把握できていない児童が多い。 ○技の完成形をイメージできていない児童が多く、自分に足りない部分が何で、それに対して何をすればよいかを具体的に考えて練習することに課題がある。	○ICT機器を活用し、今の自分の力を記録させたり、参考になる図や動画を配信したりすることで、自己の課題に合った運動に取り組めるようにする。 ○学習カードを細かくチェックし、書き方だけでなく、必要に応じて具体的なアドバイスを伝えるようにする。
第6学年	○自己の課題に合った、場や活動を選ぶことができない児童がいた。 ○自己調整学習を深化できている児童とできていない児童の二極化があった。 ○ICTを活用し、理想のイメージをもったり自分の動きを見える化し、課題解決につなげたりしていくことができた。	○単元の目標を個人で設定し、それに向けて課題解決に取り組んでいる。 ○ＩＣＴ機器を活用し、作戦や振り返りを録画することで、学びの蓄積をすることができた。 ○運動を見るポイントが分からなかったり、見てはいるものの声掛けができなかったりする児童の姿が見られた。 ○運動をすることが楽しいと感じている児童と楽しくないと感じている児童とで二極化している。 ○勝敗を受け入れられない児童がいる。	○主体的に学習課題を解決するための指導計画や手立てについて検討していく必要がある。明確な視点をもたせた振り返りをすることができていない。 ○友達の考えや取組みを認め合うための時間を多く設定できず、勝敗を受け入れられるような言葉掛けや雰囲気をつくることができていない。 ○単元の１時間目に、どのような自分になりたいかという目標を立てる。それに向けて毎時間の目標を考えさせるようにし、互いの動きや考えのよさを認め合える時間や見合う場を設けるようにする。